

事業報告

講座名	環境学習講座「地球温暖化の現状と温室効果ガス削減に向けた取組」
日時・場所	令和2年7月30日(木)・山口県セミナーパーク、やまぐち県酪乳業株式会社、株式会社安成工務店、株式会社デコス
参加者数	22名

地球温暖化対策・循環型社会づくりの推進について理解を深めることを趣旨とした学習講座を開催しましたので、概要を報告します。

《概要》

1 日程

9:30	開会
9:35～	講義「地球温暖化の現状と対策」 講師：山口大学教授 福代和宏 氏
11:00～	バス移動
11:30～	昼食・休憩（中国自動車道美東サービスエリア）
12:30～	バス移動
13:15～	施設見学1「メタンガス発酵プラント」 やまぐち県酪乳業株式会社（下関市菊川町）
14:30～	施設見学2「断熱材製造工場他」 株式会社安成工務店、株式会社デコス（下関市菊川町）
15:30～	バス移動
16:30	閉会

2 講義「地球温暖化の現状と対策」

山口大学教授の福代和宏氏から、以下のような興味深いお話をいただきました。

- ・地球温暖化問題の原因は、温室効果ガス（二酸化炭素、メタン、酸化窒素、オゾン等）の排出によって起こっているとされており、影響として、海面上昇、砂漠の拡大（農地の喪失）、気候変動の増加（大規模な天候被害の増加）を引き起こしていること
- ・もはや温暖化は避けられない可能性が高く、2015年の「パリ協定」では、世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃未満に抑えるべく、途上国を含めたすべての国が5年ごとに温室効果ガスの削減目標を国連に提出し、対策を進めることとされたこと
- ・エネルギー源としての石炭はCO₂排出量が多く、「石炭に未来はない」として世界的に反石炭の動きがある。わが国も石炭火力発電からの確実なCO₂排出削減に向けて、低効率の旧式石炭火力発電所を2030年度までに9割削減する方針であること
- ・エネルギー輸入国であるわが国は、常に危地におかれているという現状認識を持ち、3本の矢（省エネ・創エネ・蓄エネ）を駆使して温暖化防止とエネルギー安全保障とを推進する必要があること

- ・省エネについては、技術は発展しているが導入費用の面から個人も企業も及び腰であり、省エネ行動で対応している状況であること。創エネ（再エネ）は化石燃料に比べるとまだコスト高だが低下傾向にあること。蓄エネ（蓄電）はエネルギー需給的側面からも、防災的側面からも、必要性が増してきていること 等
受講者は、講師の具体的でわかりやすい説明に熱心に聞き入っていた。

3 施設見学

午後は、バスで、温暖化対策に取り組む企業施設を訪問した。最初に訪問したやまぐち県酪乳業株式会社では、工場から出る廃棄物からメタン発酵によりメタンガスを生成し、エネルギー源として再利用する「メタンガス発酵プラント」について説明を受け、プラントを見学した。

次に株式会社安成工務店を訪問し、トレーサビリティ（履歴追跡可能）材を仕入れ、木の持つ性質を活かす「木づかい」をするプレカット工場を見学した後、隣接する株式会社デコスを訪問し、火や水を使わずに電気のみで地域で回収された新聞紙から断熱材（セルロースファイバー）を生産する工場を見学した。

4 まとめ

30名の定員に対して37名の応募があり、抽選によって30名を参加者とした（辞退者があり、当日参加者は22名）。

新型コロナウイルス感染症対策として、当センターで設定した留意点に従い、講習会場やバス内での3密を避けるための座席配置を工夫するなどして実施した。

受講者から多くの質問が出されるなど、熱心に学習し、地球温暖化の現状と対策や県内事業所の取組について理解を深めることができた貴重な1日とすることができた。



講義会場



講義風景



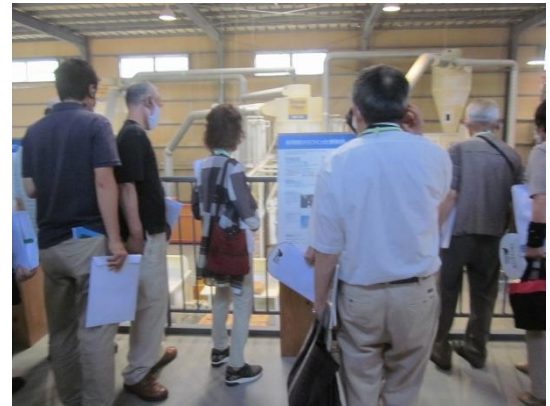
やまぐち県酪乳業株式会社見学風景



やまぐち県酪乳業株式会社見学風景



株式会社安成工務店見学風景



株式会社デコス見学風景